

ドヴォルザークの人気作2曲を、俊英指揮者が一度に聴かせるコンサート

山崎浩太郎(音楽評論家)

チェコには、中世以来の豊かな音楽の伝統がある。20世紀の初めまでボヘミアと呼ばれたこの地域からは、バッハやベートーヴェンと同じ時代にも多くの優れた音楽家が生まれ、ドイツやヨーロッパ各地で活躍した。19世紀後半には、ベドルジハ・スメタナ(1824~84)とアントニン・ドヴォルザーク(1841~1904)が相次いで登場し、世界的にその名を知られることで、チェコ音楽は豊かな稔りの時代を迎えることになった。スメタナは「モルダウ」を含む連作交響詩「わが祖国」で知られているし、ドヴォルザークは多数の傑作をさまざまなジャンルで書きあげた。なかでも世界的に愛されているのが、交響曲第8番と第9番の2曲である。

第8番はイギリスの出版社から楽譜が発行されたので「イギリス」と呼ばれ、第9番はドヴォルザークがアメリカに渡って音楽院の院長をしていた時期に作曲されたことから、「新世界より」と名づけられた。どちらも生気にあふれるリズム、哀愁にみちた美しいメロディなど、ドヴォルザークの魅力が詰まっている。第8番には、ボヘミアの自然とともに生きる人々の、朗らかでたくましい生命力がある。牧歌的なメロディや快活な舞曲など、明朗で活力に満ちている。第9番も、歌詞をつけて歌われることもあるほど美しく、もの悲しい第2楽章の旋律や、まるで機関車の発進を音にしたように感じられる第4楽章の始まりなど、全曲が聞きどころばかりの傑作だ。どちらも演奏会のメインの曲目になりうる人気曲2曲を、一度に楽しめようというのが、今回の演奏会の大きな魅力である。

その指揮をするのは1981年生まれの俊英、ヤクブ・フルジャ。20世紀以降、チェコでは優れた指揮者が輩出した。ヴァーツラフ・ターリヒ、ラファエル・クーベリック、カレル・アンチェルなどから、昨年亡くなったイルジー・ビエロフラーヴェク、近年の日本でとりわけ愛されたラドミル・エリシュカまで、枚挙にいとまがない。フルジャは、そのビエロフラーヴェクとエリシュカから親しく教養を受けて、チェコ音楽の輝かしい伝統を受け継ぐ若い世代の代表者である。みずみずしいセンスで鮮度の高い響きを導き出す一方、冷静なコントロールで音楽の骨格をしっかりと造形する力にも長けている。2010年から東京都交響楽団の首席客演指揮者をつとめたので、日本にも多くのファンがいる。

演奏するバンベルク交響楽団は、フルジャが2016年から首席指揮者に就任したオーケストラ。バンベルクはドイツ南部のバイエルン州にある人口7万ほどの小さな町だが、この交響楽団は、町の大きさに見合わない規模と高い技術力をもっていることで知られる。理由の一つは、チェコのプラハにいたドイツ人音楽家によるオーケストラが1945年にまるごと移住し、翌年に新たに結成した団体だからだ。いま、ドイツのオーケストラのなかに生きるチェコの伝統が、フルジャのもと、新たな輝きとともに甦ろうとしている。

Jakub Hruša (conductor)

ヤクブ・フルジャ(指揮)

1981年チェコに生まれる。現在、東京都交響楽団首席客演指揮者、バンベルク交響楽団首席指揮者、フィルハーモニア管弦楽団首席客演指揮者、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団常任客演指揮者。これまでにチェコ・フィルのアソシエイト・コンダクター(2002~5)、フランス放送フィルハーモニー管のヤング・アソシエイト・コンダクター(2005~6)、ボスラフ・マルティヌー・フィルハーモニー管の音楽監督(2005~8)、プラハ・フィルハーモニア管の客演指揮者(2005~8)、グライントボーン・オン・ツァーの音楽監督(2010~12)、プラハ・フィルハーモニア管弦楽団の音楽監督兼首席指揮者(2009~15)を歴任。指揮をプラハ芸術アカデミーでビエロフラーヴェクに学び、2004年の卒業以来、チェコの主なオーケストラ、国民劇場に度々招かれ、自国での揺るぎない評価を確立。同時に世界各地のオーケストラにも客演。ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管、シトウトガルト放送響、ケルン放送響、フランス放送フィル、クレーヴランド管、シドニー響など、度々共演を重ねている。最近の主な活動として、フィルハーモニア管と取り組んだ「ボヘミアの伝説」、「ロシア5人衆」といった一連の演奏会シリーズ、シカゴ響、ニューヨーク・フィル、ロサンゼルス・フィル、ウイーン放送響、ロシア・ナショナル管、ボルティモア響、オランダ放送フィル、フィラデルフィア管、ウイーン響、RAI国立響、ミラノ・スカラフィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、ベルリン・ドイツ響、フィンランド国立歌劇場「イエヌーファ」、バリオペラ座「ルサルカ」、ウイーン国立歌劇場「マクローロス事件」へのデビューなど、注目の公演が目白押しで、将来を嘱望される若手指揮者として急速に世界各地でその評価を高めている。2011年のグラモフォン誌においては、巨匠となる可能性の高い10人の若手指揮者のひとりとして名前が挙げられた。2010年、プラハ・フィルハーモニア管とともにプラハの春国際音楽祭65周年記念となるオープニング公演に史上最も若い指揮者として招かれ、スメタナの「我が祖国」を演奏して、国際的な注目と評価を集めた。2012年と2015年には、同団との日本ツアーを実現している。国際マルティヌー協会会長。

Bamberger Symphoniker

バンベルク交響楽団

1946年、第二次大戦後避難民としてバイエルン州の古都バンベルクに移ってきた、プラバ・ドイツ・フィルハーモニーの元メンバーやカールスバードやシュレジアからの音楽家たちによって結成。最良の音楽の伝統の発祥地であるボヘミア気質を受け継ぎ、行き届いた訓練、卓越した技術と感性、洗練された響きでたちまち成功を収める。ヨーゼフ・カイルベルト、ルドルフ・ケンペ、ハンス・クナッパertzビュッシュ、クレメンス・クラウス、オイゲン・ヨッフム、ホルスト・シュタイン、インゴ・メッツマッハーら著名な指揮者たちが独自のサウンドを磨き上げた。冷戦の終結によって、バンベルクは地理上でも政治面でもドイツの、そしてヨーロッパの中心の位置を占めることとなり、1993年には「ヨーロッパ有数の名オーケストラ」(オイゲン・ヨッフム談)にふさわしい優れた音響のバンベルク・コンサートホールも完成して、世界一流と評価の高い夏のコンサートシリーズ(1994年~)を開催するなど、更なる飛躍を遂げている。首席指揮者は2000~2015年にジョナサン・ノットを迎え、2016年からはヤクブ・フルジャがその任を継いでいる。名誉指揮者はヘルベルト・ブロムシュテットであり数々の名演を重ねている。現在ドイツで最も多忙なオーケストラであり、年間約120回の演奏会を、バンベルクをもとよりドイツ各地や各国で開き、ラジオ・テレビ放送やCD録音も盛んに行っている。

※やむを得ぬ事情により出演者・曲目等変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。※チケットは如何なる場合(紛失・盗難・破損等)も再発行いたしません。※ご購入いただいたチケットは公演中止の場合を除き、変更払い戻しはいたしません。※公演中止の場合に、旅費等の補償はできません。チケット券面額以外は一切ご返金できません。

Miraist Clubのご案内

Miraist Club(みらいすクラブ)メンバーはホール主催公演などのチケットの割引、先行発売のサービスはもちろん、魅力的な特典をお楽しみいただけます。ぜひ資料をご請求ください。
Miraist Club事務局 045-682-2025(10:00~17:00)
チケットセンター 045-682-2000(10:00~17:00)

■託児サービス 生後6ヶ月から小学生までのお子様を、お預かりする託児サービスがございます。予約制:先着10名様・お一人様2,100円(税別)。公演の3ヶ月前から5日前までの予約受付。
【お問合せ・ご予約】株式会社 明日香(あすか) 0120-165-115
通話料無料で携帯電話・PHSからもご利用いただけます。
※フリーダイヤルがつかない場合03-6912-2125(通話料有料)
(月~金:9:00~17:00/土:9:00~12:00/日・祝:休)

横浜みなとみらいホール

【公益財団法人横浜市芸術文化振興財団】
〒220-0012横浜市西区みなとみらい2-3-6
TEL:045-682-2020 FAX:045-682-2023
<http://www.yaf.or.jp/mmh/index.php> @yokohamammh

交通のご案内

- みなとみらい駅(東急東横線直通みなとみらい線)下車、徒歩3分。
「クイーンズスクエア横浜連絡口」改札(地下3階)より左方向。クイーンズスクエア横浜内の吹き抜けエスカレーター(赤)を1階まで上がり左方向、クイーンモール左奥。
- 桜木町駅(JR浜東北線・根岸線・横浜市営地下鉄)下車、徒歩12分。
みなとみらい方面の「動く歩道」から、ランドマークプラザ経由(3階から1階へ)でクイーンズスクエア横浜、クイーンモール左奥。

